

平成24シカ年度 ルサ-相泊地区、幌別-岩尾別地区における 密度操作実験について

1. ルサ-相泊地区

●実施方針

- ✓ ルサ-相泊地区における密度操作実験は3カ年計画とする。
- ✓ 初年度は流し猟式SSを主たる捕獲手法し、囲いワナ(ルサ河口既存施設を改良)を併用する。攪乱による捕獲効率の低下を最小限とするため、初年度は巻き狩りは行わない。
- ✓ 2年目は初年度の効果検証を行った上で、必要に応じて巻き狩りによる捕獲も検討する。
- ✓ 最終年は実験の総括を行うとともに、技術的な可能性や、社会的条件など多角的に中長期的な目標達成が可能かどうか検討し、事業化(捕獲の継続)の可否について最終的な判断を行う。

●短期目標

- 3年で、生息密度5頭/k m²を目指す。
- H24シカ年度は総数300頭捕獲を目標値とする。

●捕獲手法

1. 囲いワナによる捕獲(ルサ既存大型ワナの再改良)

- 期間: 11月ワナ改修作業(規模縮小)。12月馴致・餌付誘引開始。12月下旬～4月末まで約1カ月に1～3回程度の捕獲ペースを想定。
- 実施候補地: ルサ川下流左岸(既存ワナ)
- 検討事項: より広範囲からの餌付け誘引、ワナ構造改良、遠隔操作電動ゲートと自動落下式ゲートの組み合わせ。
- 捕獲目標頭数: 約120頭 ← H22・23シカ年度の実績より
(H22: 0.8頭/日, H23: 0.9頭/日, とともに餌付け期間含む)
 $0.8 \times 151 \text{日 (5ヵ月)} = 120.8$
- 捕獲物処理: 生体で譲渡し、有効活用。

2. 流し猟式SS

- 期間: 11月下旬餌付け開始。12月下旬～3月下旬に週1～2回、4月中に週1回程度の捕獲を実施。
- 実施候補地: 道道知床公園羅臼線沿い(ルサ～相泊)。
- 捕獲目標頭数: 約180頭
 - ①H23実績(巻き狩りの攪乱影響を受けた3日分を除く7日分) $52 \text{頭}/7 \text{日} = 7.4 \text{頭/日}$
 - ②12月下旬～3月下旬までの約14週 週2回 = 28日
4月 週1回 = 4日

合計 32 日 天候、シカの状況により実施しない日が 1/4 と想定して 24 日
 $7.4 \times 24 \text{ 日} = 177.6$

○捕獲物処理：死体で譲渡し、有効活用。有効活用施設での受入が困難な場合は、廃棄物として処理する。

2. 幌別-岩尾別地区

●実施方針

- ✓ 幌別-岩尾別地区における密度操作実験は 3 カ年計画とする。
- ✓ 初年度は岩尾別地区に捕獲努力を集中させることとし、流し猟式SSを主たる捕獲手法とする。仕切り柵を使用した巻き狩りについては、初年度は手法試験的な位置づけで実施する。
- ✓ 2 年目は初年度の効果検証を行った上で、3 年間の具体的な数値目標を明確化するとともに、捕獲技術面等で修正可能な点は修正を行う。
- ✓ 最終年は実験の総括を行うとともに、技術的な可能性や、社会的条件など多角的に中長期的な目標達成が可能かどうか検討し、事業化(捕獲の継続)の可否について最終的な判断を行う。
- ✓ 幌別地区については、岩尾別地区の進捗状況を勘案しながら、投入可能な捕獲手法開発と捕獲努力量の確保ができた時点で、密度操作実験を開始することとする。

●短期目標

ヘリセンサスによるエゾシカ生息密度 9.8 頭/km² 以下(2003 年レベル)の実現。
H24 シカ年度は総数 1340 頭捕獲を目指す。

●捕獲手法

1. 小型囲いワナ(AIゲート)による捕獲(新設 1 基)

- 期間： 11 月中旬設置。11 月中旬～馴致・餌付誘引。12～4 月捕獲。
※ただし、ヒグマの冬眠明けをもって終了。
- 実施予定地： 岩尾別川河口左岸(新設)
- 仕様等： H23 シカ年度に実施した幌別地区のものと同様のもの。AIゲートによる無人監視、自動ゲート閉鎖(手動による閉鎖も選択できる仕様変更を検討)。
- 検討事項等： 効果的な餌付け誘引方法の開発。
- 捕獲目標頭数： 約 170 頭
 $1.44 \text{ 頭/日}(\text{H23 年度幌別地区実績}) \times 121 \text{ 日}(12 \sim 3 \text{ 月}) = 174 \text{ 頭}$
- 捕獲物処理 生体で譲渡し、有効活用。

2. 流し猟式 SS(無積雪期)

- 期間： 6 月、11～12 月
- 実施候補地： 100 平米運動地作業道(幌別-岩尾別地区)
- 検討事項： 無積雪期に効率的捕獲が可能か手法検討を行う。

- 捕獲目標頭数： 約 80 頭(6月実施分 25 頭を含めると約 100 頭)
6.25 頭/回(H24 年 6 月実績)×12 回(月6回)=75
- 捕獲物処理： 死体で譲渡し、有効活用。

3. 流し猟式 SS(積雪期)

- 期間： 1～4月 ※ただし、岩尾別ゲートオープンまで。
冬期観光利用との共存のため、平日の午後実施(但し、餌付け作業等は制限なし)
- 実施候補地： 道道知床公園線及び町道知床五湖道路(岩尾別～知床五湖)。
その他の路線(道道のイダシュベツ川方面、町道岩宇別温泉道路、国道 334 号知床横断道路の一部区間)についても、拡大実施を検討。
- 検討事項： 上記実施路線の拡大。大型囲い柵による捕獲との調整(餌付け時期・捕獲実施時期)
- 捕獲目標頭数： 約 790 頭
22.07 頭/回(23 シカ年度実績)×36 回(2 日間隔程度)=794.5 頭
- 捕獲物処理： 死体で譲渡し、有効活用。有効活用施設の処理能力を超える捕獲があった場合は、一部廃棄物として有償処分。

4. 仕切り柵を使った囲いわな式捕獲

- 期間： 1～2月
- 実施候補地： 岩尾別(海岸側ササ地)
- 検討事項： 大面積のササ地を仕切り柵により囲い込み、巨大な囲いわなのようにして大量捕獲する。
- 捕獲目標頭数： 約100頭 (U5推定生息数の 10%程度)
- 捕獲物処理： 今シーズンに関しては生体捕獲を前提とする。捕獲した個体は譲渡し有効活用。生体搬出が困難な場合は死体で譲渡する。有効活用施設の処理能力を超える捕獲があった場合は、一部廃棄物として有償処分。

5. 仕切り柵を使った巻狩り

- 期間： 4月
- 実施候補地： 知床五湖の西側ササ地
- 検討事項： 知床五湖西側の広大なササ地で採食するシカを、仕切り柵によって逃げ場を奪った上で海岸側に追い詰めて大量捕獲する
- 捕獲目標頭数： 約200頭 (U4-2 推定生息数の 20%程度)
- 捕獲物処理： 死体で搬出し、活用可能な場合は有効活用。有効活用施設の処理能力を超える捕獲があった場合は、一部廃棄物として有償処分。
- その他 設置初年度は、積雪期の他手法による捕獲が終了後に手法検討のための試行捕獲として実施。2 年目からはこれ以外の仕切り部を含めて本格的な捕獲を行う。

○囲い柵の構造 既存柵や断崖となった海岸線などと新設柵を上手く組み合わせて、物理的にシカの移動を遮断し、狭隘部に誘導集合させるよう配置する。

表1. 平成24 シカ年度密度操作実験 (ルサ - 相泊地区)

手法	8~9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
			*シカ季節移動			← 積雪十分に		← シカ 道路法面に集中		*シカ季節移動
					← ルサ FH 冬期閉館		← 猛禽繁殖期		⇔ スポットライトセンサス (春期集中)	
			⇔ スポットライトセンサス (秋期集中)			← 航空カウント1回				
実施手法案	1. 大型囲いワナ (ルサ川左岸 既設) ※捕獲効率向上のための改修を行う	改修設計、自動落下式ゲートの追加設置検討		← ワナ改修	← 馴致・餌付け期間 餌付け + 捕獲	← 餌付け + 捕獲	← 餌付け + 捕獲	← 餌付け+捕獲	← 餌付け+捕獲	
	2. 流し猟式SS (ルサ-昆布浜: 昨年同様) (昆布浜-相泊: 実施区間拡大) → 道道区間約 8km (相泊以北海岸 約 1km)		路上発砲の関係機関交渉	← 餌付け	← 餌付け + 捕獲 (道道知床公園羅臼線) 週2回程度捕獲	← 餌付け + 捕獲 (道道知床公園羅臼線) 週1回程度捕獲				

表2. 平成24シカ年度密度操作実験（幌別 - 岩尾別地区）

手法	8～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
				*シカ越冬地に移動開始			シカ海食台地縁、道路法面に集中			
				冬期閉鎖道路		冬期利用(岩尾別～五湖)	猛禽繁殖期			
						流水期			4月20日頃 岩尾別ゲートオープン	
				岩尾別～五湖間道道冬期閉鎖 11月下旬～4月下旬						
実施手法案	モニタリング		スポットライト センサス			航空カウント1回				
	1. 小型囲いワナ (岩尾別河口 新設)		ワナ設計	設置工事	馴致・餌付け	餌付け+捕獲			ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了	
	2. 無積雪期流し猟式 SS (100平米運動地)	6月捕獲 (実施済み)		捕獲						
	3. 積雪期流し猟式 SS (岩尾別 知床公園 線・知床五湖道路)		関係機関との調整、協議			捕獲(+餌付け)			岩尾別ゲートオープンまで	
	4. 仕切り柵を用いた 囲いわな式捕獲 (岩尾別海岸側ササ地)			設置工事		捕獲1回?				
	5. 仕切り柵を用いた 巻狩り (知床五湖側ササ地)			設置工事				捕獲		